資料－６

名取川・阿武隈川下流等流域治水協議会 小ブロック単位検討の進め方について （7/7事務局案）

▌課題①：３月公表のプロジェクトは、各事業主体の「代表事例」を示した形。

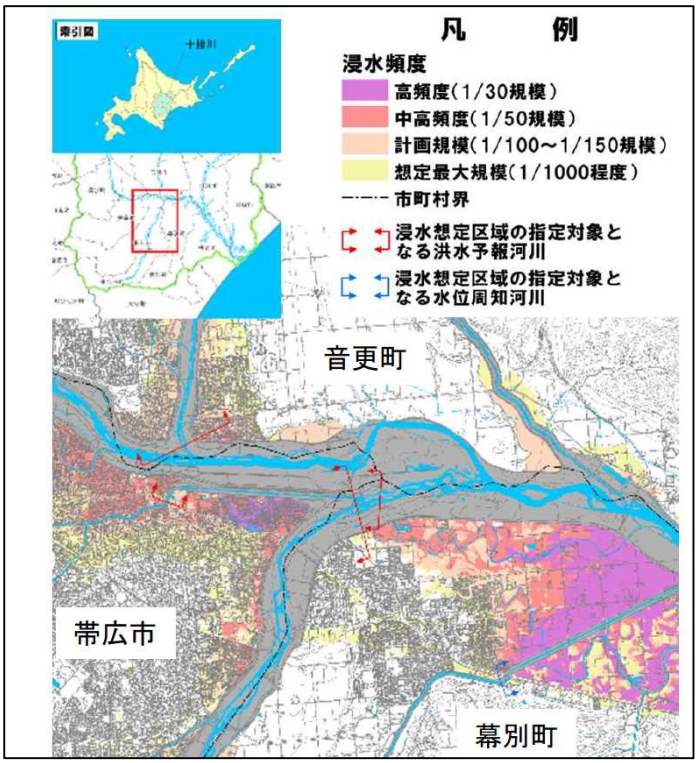
・今後の流域治水の事業メニューとその効果の見える化に向け、取り組み計画をしっかり詰めていく必要がある。

▌課題②：今後の流域治水推進のための水災害リスク情報の充実に向け、『水害リスクマップ（仮称）』を、年度内に作成予定。

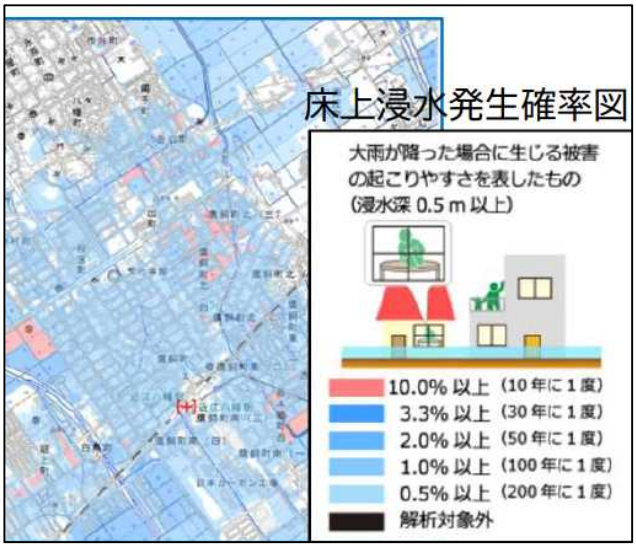
・L2（想定最大）の他、中高頻度の降雨を想定した場合の水害リスク情報を重ねあわせ、浸水の頻度を示すもの。

・まちづくりや住まい方の工夫、将来の宅地開発や企業の立地選択等での利活用を目指すイメージ。

【水害リスクマップ（仮称）イメージ図】



北海道開発局帯広開発建設部浸水頻度マップ（帯広市、音更町、幕別町）



内外水一体型モデルを用いた、多段階浸水想定区域図 （滋賀県の例）

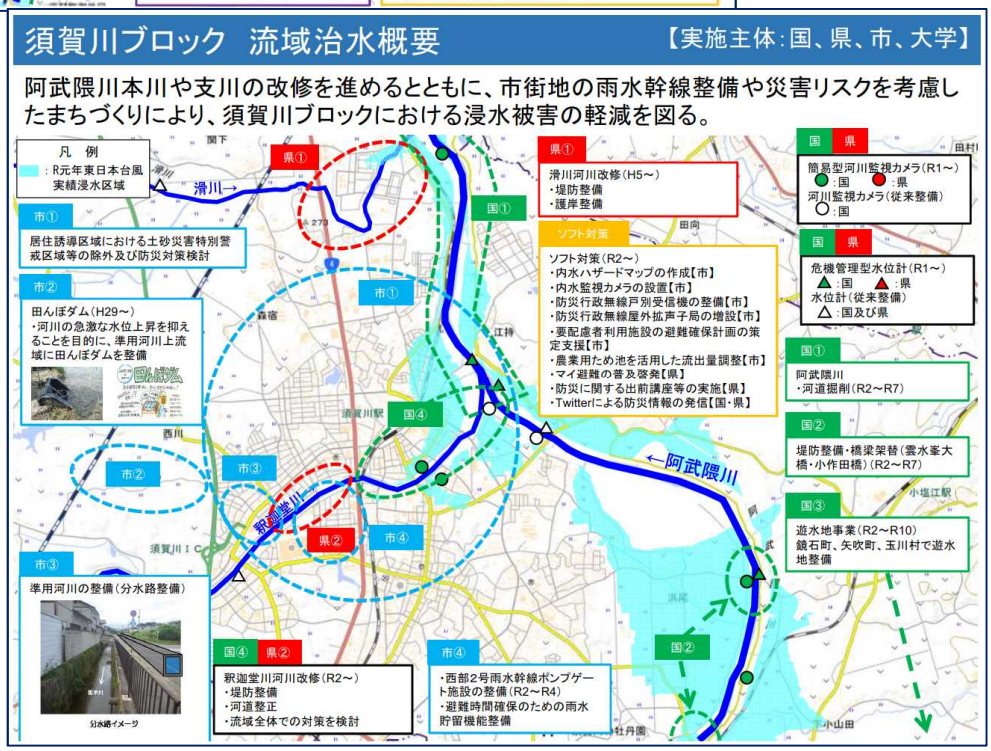
名取川・阿武隈川下流等流域治水協議会
小ブロック単位検討の進め方について （7/7事務局案）

■対応案：小ブロック（市町単位、または支川単位）での分科会を立ち上げ、「全体最適」に係る「個別最適」を議論。

・ブロック単位の全体像、各事業の役割分担を明確にしていく。

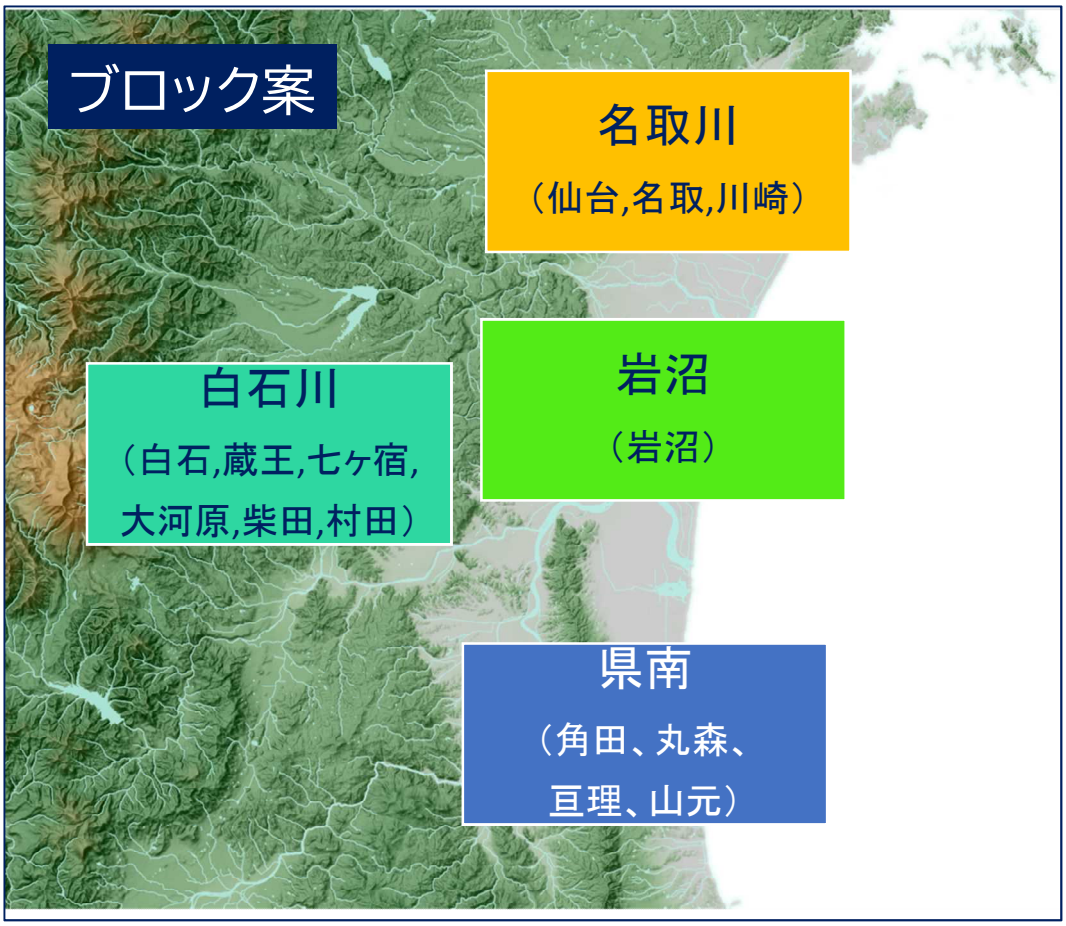
・連携・相乗の効果、今後進めて行く上での隘路などを共有。

作成のイメージ
【阿武隈川上流】
郡山／須賀川



名取川・阿武隈川下流等流域治水協議会
小ブロック単位検討の進め方について （7/7事務局案）

▌分科会におけるブロック検討 （4ブロック）



▌分科会のメンバー案 （≒ 関係機関の幹事会メンバー）

・ブロック該当市町 （危機・建設・都市・下水・農林）
・県 （本庁または出先機関の関連部局）
・国 （関係の出先機関）

▌開催頻度・スケジュール

R3．7 ・・・ 分科会立ち上げ。（各市町のデータ集め）
R3．10・・・ 中間打合せ（水害リスクマップとの重ね合わせ）
R4．1 ・・・ ブロック案のとりまとめ
R4．2 ・・・ 協議会に諮り、公表